

事業報告

(平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果ならびに対処すべき課題

① 事業の経過およびその成果

当期のわが国経済は、金融政策や財政政策などの政府の経済対策を背景に、昨年までの円高が是正されたことにより輸出産業が持ち直しに向かい、加えて震災からの復興に伴う需要を含め公共投資が増加するなど、回復基調が継続しました。また、海外においては、米国では緩やかながら景気回復基調が継続しましたが、欧州の景気は低調に推移しました。中国では経済成長を維持しているものの、総じて景気の減速基調が継続しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材の販売数量は、自動車向けの需要が堅調に推移したことや、円高の是正の影響などにより輸出環境に改善がみられる中、着実に海外需要を取り込んだことなどから、前期を上回りました。アルミ圧延品の販売数量は、自動車向けの需要が堅調に推移したことなどから、前期を上回りました。銅圧延品の販売数量は、自動車用端子向けの需要が堅調に推移したことや、半導体向けの需要も回復基調が継続したことなどから、前期を上回りました。油圧ショベルの販売台数は、国内においては、震災からの復興需要に加え、排ガス規制に向けた駆け込み需要などにより増加したことや、海外においては、東南アジアでは需要が低調に推移したものの、中国では景気の底打ち感がみられたことや、北米および欧州における拡販が順調に進捗していることなどから、前期を上回りました。

この結果、当期の連結業績は、売上高は、前期に比べ1,391億円増収の1兆8,246億円となりました。また、総コストの削減が進展したことや、在庫評価影響の好転および固定資産の減価償却方法を変更した影響もあり、営業利益は、前期に比べ1,033億円増益の1,145億円、経常損益は、前期に比べ1,031億円増益の850億円の利益となりました。なお、ナブテスコ株式会社をはじめとした当社保有株式を売却したことによる投資有価証券売却益などを特別利益として計上した一方、神戸製鉄所の上工程設備を加古川製鉄所に集約する「鋼材事業の構造改革」を決定したことに伴い、神戸製鉄所の休止予定設備の減損損失などを特別損失として計上しました。この結果、当期純損益は、前期に比べ971億円増益の701億円の利益となりました。

単独業績につきましては、売上高は、前期に比べ598億円増収の9,937億円となり、営業損益は前期に比べ873億円増益の461億円、経常損益は803億円増益の583億円、当期純損益は635億円増益の566億円の利益となりました。

なお、当社は、平成25年5月に策定したグループ中期経営計画において、「経営基盤の再構築」と「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」を打つことを経営課題に掲げております。これらを着実に実現し、当社グループの持続的成長を確かなものにするべく、当期において、公募増資を実施し、公募による新株式発行および自己株式の処分などを合わせ、6億3,250万株を発行、836億円を調達しております。この調達資金に

については、鉄鋼事業およびアルミ・銅事業における自動車分野での設備投資を含む戦略投資資金や、「鉄鋼事業の収益力強化」と「鋼材事業の構造改革」に係る設備投資資金に充当する予定です。

当社は、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に勘案して決定することとしております。これに基づき、当期の配当につきましては、業績が前期から大幅に改善したことなどを勘案し、期末配当として、1株につき4円とさせていただきます。

当社グループの事業別の事業の経過およびその成果は以下のとおりであります。

【鉄鋼事業部門】

鋼材については、自動車向けの需要が国内および米国を中心とした海外において堅調に推移したことや、円高の是正の影響などにより輸出環境に改善がみられる中、着実に海外需要を取り込んだことなどから、販売数量は、前期を上回りました。また、為替の影響などによる主原料価格の上昇を背景に、鋼材価格の改善に努めた結果、販売価格は、前期を上回りました。

鋳鍛鋼品の売上高は、造船向けの需要が総じて低調に推移したことや、販売価格が下落した影響などにより、前期を下回りました。一方、チタン製品の売上高は、前期を上回りました。

この結果、当期の売上高は、前期比8.8%増の8,085億円となり、経常損益は、総コストの削減が進展したことや、在庫評価影響の好転および固定資産の減価償却方法の変更影響もあり、前期に比べ838億円増益の335億円の利益となりました。

【溶接事業部門】

溶接材料の販売数量は、国内における自動車、建築向けの需要は堅調に推移し、下半期からは造船向けの需要も回復基調にあったものの、中国における景気減速が継続した影響などにより、前期並となりました。また、溶接システムの売上高については、中国を中心に建機向けの需要が低迷したものの、国内建築向けの需要が増加したことなどから、前期を上回りました。

この結果、当期の売上高は、円高の是正の影響もあり、前期比7.5%増の883億円となり、経常利益は、総コストの削減が進展したことなどから、前期に比べ50億円増益の72億円となりました。

【アルミ・銅事業部門】

アルミ圧延品の販売数量は、自動車向けの需要が堅調に推移したことなどから、前期を上回りました。アルミ鋳鍛造品の売上高についても、自動車向けの需要が米国を中心に堅調に推移したことなどから、前期を上回りました。

銅圧延品の販売数量は、銅板条において自動車用端子向けの需要が堅調に推移したことや、半導体向けの需要も回復基調が継続したことに加え、銅管において国内および海外向けのエアコン需要が堅調に推移したことなどから、前期を上回りました。

以上の状況に加え、販売価格に転嫁される地金価格が上昇したことなどから、当期の売上高は、前期比12.8%増の2,956億円となり、経常利益は、総コストの削減が進展したことに加え、在庫評価影響の好転もあり、前期に比べ112億円増益の151億円となりました。

【機械事業部門】

海外を中心に石油精製・石油化学業界向けの圧縮機の需要が堅調に推移したことなどから、当期の受注高は、前期比39.6%増の1,528億円となり、当期末の受注残高は、1,222億円となりました。

また、当期の売上高は、樹脂機械などの大型案件の売上計上が集中した前期と比べると10.4%減の1,498億円となり、経常利益は、前期に比べ55億円減益の64億円となりました。

【エンジニアリング事業部門】

当期の受注高は、北米およびロシア向け大型還元鉄プラントを受注したことなどから、前期比48.3%増の498億円となり、当期末の受注残高は、833億円となりました。

また、当期の売上高は、大型還元鉄プラントの建設工事の進捗度合いの影響などにより、前期比15.9%減の391億円となり、経常損益は、前期に比べ26億円悪化し、39億円の損失となりました。

【神鋼環境ソリューション】

当期の受注高は、廃棄物処理関連事業の大型案件を受注したものの、同様の大型案件を受注した前期と比べると、2.3%減の718億円となり、当期末の受注残高は、472億円となりました。

また、当期の売上高は、廃棄物処理関連事業においては既受注大型案件の建設工事が完工したことにより増収となりましたが、水処理関連事業および化学・食品機械関連事業においては減収となり、前期比6.2%減の681億円となりました。経常利益は、案件構成の変化もあり、前期に比べ13億円減益の26億円となりました。

【コベルコ建機】

油圧ショベルの販売台数は、国内においては、震災からの復興需要に加え、排ガス規制に向けた駆け込み需要などにより増加したことや、海外においては、東南アジアでは需要が低調に推移したものの、中国では景気の底打ち感がみられたことや、北米および欧州における拡販が順調に進捗していることなどから、前期を上回りました。

この結果、当期の売上高は、前期比18.8%増の3,182億円となり、経常利益は、前期に比べ82億円増益の151億円となりました。

【コベルコクレーン】

クローラクレーンの販売台数は、国内においては政府の経済対策による公共投資の増加や、震災からの復興需要などを背景に増加したことに加え、海外においても、東南アジア向けが増加したことなどから、前期を上回りました。

この結果、当期の売上高は、前期比24.5%増の566億円となり、経常損益は、円高の是正により輸出採算が改善したこともあり、前期に比べ54億円増益の32億円の利益となりました。

【その他】

神鋼不動産株式会社においては、分譲事業において、引渡戸数が減少しました。株式会社コベルコ科研においては、試験研究事業における需要は堅調に推移したものの、液晶配線膜用ターゲット材の分野において、需要が低迷しました。

以上の状況から、その他の事業全体の当期の売上高は、前期比2.8%減の712億円となり、経常利益は、前期に比べ7億円減益の68億円となりました。

② 対処すべき課題

当社グループを取り巻く事業環境は、政府の経済対策による円高の是正や公共投資の増加などを背景に、国内産業の生産水準が増加するなど、外部環境は好転しているものの、中国経済の減速や米国の量的緩和縮小による新興国経済の悪化が懸念されるなど、依然として、先行きへの不透明感は拭えません。

当社グループは、平成22年4月より、「中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION“G”』～新しい価値の創造とグローバルな成長を目指して～」の実現に向けて取り組んでおります。しかしながら、事業環境がめまぐるしく変化する中、中長期経営ビジョンの実現に向けては、「経営基盤の再構築」と「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」を打つことが必要との認識のもと、平成25年5月にグループ中期経営計画を策定し、以下のような取組みを進めております。

「経営基盤の再構築」	「収益の『安定』と事業の『成長』 に向けた布石」
・鉄鋼事業の収益力強化 ・成長分野・地域での販売量の確保 ・体質強化活動 ・財務体質の改善	・鋼材事業の構造改革 ・機械系事業の戦略的な拡大 ・電力供給事業の拡大

こうした取組みにより、「素材系事業と機械系事業の2本柱に加え、電力供給事業を安定収益基盤とした独自の複合経営」をより強化し、中長期経営ビジョンの実現を目指してまいります。

【中長期経営ビジョン】

中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION“G”』とは、多様な素材系、機械系のビジネスで培った神戸製鋼グループならではの知識・技術を更に融合することにより、

- ・グローバル市場において存在感のある企業グループ
- ・安定収益体質と強固な財務基盤を備え持つ企業グループ
- ・株主・取引先・従業員・社会と共栄する企業グループ

の3つを5年～10年後の神戸製鋼グループ像として目指すものです。当社グループは、安全・コンプライアンスへの取組みを徹底した上で、以下の基本方針の下、様々な事業を展開しております。

『KOBELCO VISION“G”』の基本方針

- (i) オンリーワンの徹底的な追求
- (ii) 「ものづくり力」の更なる強化
- (iii) 成長市場への進出深化
- (iv) グループ総合力の発揮
- (v) 社会への貢献

「経営基盤の再構築」と「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」についての取組み内容は以下のとおりです。

「経営基盤の再構築」

＜鉄鋼事業の収益力強化＞

鉄鋼事業部門を安定収益体質にすることは、当社グループにとって最大かつ喫緊の課題です。生産現場レベルでのコスト削減、安価品調達などによる原料コスト削減、固定費削減などあらゆるコスト削減策を実現し、競争力の強化を図ってまいります。加えて、平成26年4月に稼働を開始した加古川製鉄所における新溶銑予備処理設備や、平成26年度中に稼働を開始する予定の高効率ガス火力自家発電設備、厚板加速冷却設備の改造などの投資効果を着実に取り込むとともに、品種構成改善や拡販により安定的な収益体質の構築を進めてまいります。

＜成長分野・地域での販売量の確保＞

中長期経営ビジョンの策定以降、自動車ハイテン鋼板の設備新設（北米）、自動車高級弁ばね用鋼線の製造・販売拠点設立（中国）、アルミ鍛造部品の製造・販売拠点設立および増強（中国、北米）、非汎用圧縮機メーカーへの資本参加（中国）など、海外拠点の拡充を進めてまいりました。

当期においては、自動車軽量化ニーズの取込みのグローバル展開の一環として、自動車向け需要の拡大が見込まれる中国で、鞍鋼股份有限公司と自動車ハイテン鋼板の製造・販売に関する合弁事業契約を締結したほか、自動車パネル用アルミ板材の製造・販売を行なう新会社を設立しました。

今後も更なる需要の捕捉のための取組みを継続するとともに、各拠点を最大限に活用し、自動車、資源・環境、エネルギー、社会インフラといった成長分野と、これらの分野で成長が期待できる地域において、鉄鋼・溶接・アルミといった素材系、産業機械・エンジニアリング・建設機械といった機械系のそれぞれのオンリーワン製品・技術・サービスを中心として、最大販売量の確保に取り組んでまいります。

＜体質強化活動＞

平成24年10月に設置した「体質強化委員会」において、「人事／労務」、「固定費」、「調達コスト」、「工場／ものづくり」の4つのテーマでコスト削減を目指した活動に取り組んでおります。これらの活動を通じて全社的な固定費や調達コスト、製造工程・技術の徹底した検証による不良率の低減などの品質失敗コストの削減を進め、中長期的な体質強化を図ってまいります。

＜財務体質の改善＞

鉄鋼事業部門の収益安定化やその他事業部門の収益改善とは別に、在庫圧縮や債権流動化・資産売却などによるキャッシュの創出に加え、投融資案件の厳選を進めてまいりました。当期においては、保有株式の売却なども加えて、1,000億円を上回るキャッシュを創出いたしました。引き続き資産売却や投融資案件の厳選に取り組み、継続的に財務体質の改善を図ってまいります。

これらの重点課題以外にも、中長期経営ビジョンの基本方針である「ものづくり力」の強化や、人材育成、技術開発の強化を引き続き推進し、経営基盤の強化を図ってまいります。

「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」

＜鋼材事業の構造改革＞

鋼材事業の中長期の事業環境は、自動車を中心とした製造業の海外移転などにより、鋼材内需が漸減する可能性が高く、東アジアで新製鉄所の稼働が予定されていることから

ら、今後さらに競争が激化するなど、厳しい事業環境が継続することが予想されます。

このような状況のもと、鋼材事業においてはもう一段の競争力強化が必要であり、平成29年度を目処に神戸製鉄所の高炉をはじめとした上工程設備を休止し、加古川製鉄所に集約する「鋼材事業の構造改革」を着実に進めてまいります。

この集約による加古川製鉄所の稼働率の向上と固定費の削減により、大幅なコスト低減を図ります。また、加古川製鉄所において、最新鋭のブルーム連続铸造設備と溶鋼処理設備を新設、分塊圧延機を能力増強し、主力品種である特殊鋼線材・棒鋼の競争力を強化してまいります。

＜機械系事業の戦略的な拡大＞

伸長が期待される海外需要を確実に捕捉していく取組みは既に進めておりますが、引き続き圧縮機事業や建設機械事業などにおいて、国内外の拠点を整備し、グローバルな成長戦略を強化してまいります。また、多様な技術を有する当社グループの強みを活かし、グループ横断のプロジェクトによる技術融合を行ない、水素ステーション向け製品の開発やバイナリー発電など、新たな製品や事業の拡大を進めてまいります。

＜電力供給事業の拡大＞

神戸製鉄所の石炭火力発電所や加古川製鉄所の高効率ガス火力自家発電設備などの建設と操業で培ったノウハウを活かし、将来を見通した安定収益基盤として、電力供給事業の拡大を、様々な選択肢を視野に入れながら進めてまいります。

その一つとして、栃木県真岡市において、ガス火力発電所の建設に向けて環境アセスメントの手続きを開始しており、当期においては、発電した電力全量を東京瓦斯株式会社に販売することで同社と基本合意に達しました。平成31年の稼働を目標に、着実に事業を推進してまいります。また、神戸製鉄所において、「鋼材事業の構造改革」によって生じる高炉跡地での電力供給事業の検討を進めてまいります。

当社は、安全・コンプライアンスの向上が、中長期経営ビジョンを実現するための大前提と認識しており、その周知徹底を当社ならびにグループ各社にも図っております。引き続き、リスクの抽出からチェック、改善までの年間計画を立て実行していく「リスク管理活動」を国内外において実施することを通じて、安全・コンプライアンス意識の浸透を図ってまいります。

さらに、当社グループは社会との共生も重要な課題と認識しております。素材や機械など多様な製品・技術を提供することで、省エネルギーをはじめとした様々な社会のニーズに応えていくことだけでなく、森林保全活動への参画や、体験型学習施設の運営、そして国内外の様々な活動を進めてまいります。こうした考えのもと、当期においては、小中高生を対象として、森をテーマにした創作童話を募集し、表彰するという「KOBELCO 森の童話大賞」を新たに創設いたしました。当社グループはこうした活動を通じて、社会との共生にも取り組んでまいります。

当社グループは、喫緊の課題であった平成25年度黒字化の目標は達成いたしました。今後の更なる成長のためには、様々な課題を乗り越えなければなりません。安全・コンプライアンスの向上を図るとともに、以上のような取組みを着実に推進することで、持続的な企業価値の向上を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

③ 生産量、受注および事業別の売上高・経常利益の状況

(i) 生産量の状況

区 分		第160期 (平成24年度)	第161期(当期) (平成25年度)
鉄 鋼 事 業 部 門	粗 鋼	千トン 7,087	千トン 7,686
アルミ・銅事業部門	アルミ圧延品	274	284
	銅圧延品	122	133

(ii) 受注の状況

区 分			第160期 (平成24年度)	第161期(当期) (平成25年度)
機械事業部門	受 注 高	国 内	百万円 54,258	百万円 58,034
		海 外	55,243	94,792
		合 計	109,501	152,826
	受 注 残 高	国 内	43,253	43,703
		海 外	73,414	78,523
		合 計	116,667	122,226
エンジニアリング 事業部門	受 注 高	国 内	28,100	14,528
		海 外	5,498	35,286
		合 計	33,598	49,814
	受 注 残 高	国 内	46,811	44,152
		海 外	16,905	39,208
		合 計	63,717	83,361
神 鋼 環 境 ソリューション	受 注 高	国 内	69,744	70,447
		海 外	3,780	1,408
		合 計	73,525	71,855
	受 注 残 高	国 内	39,840	45,238
		海 外	3,697	1,994
		合 計	43,538	47,233

(注) 受注高および受注残高には、当社グループ間での受注の額を含んでおります。

(iii) 事業別の売上高・経常利益の状況

区 分	第160期 (平成24年度)		第161期(当期) (平成25年度)	
	売上高	経常利益	売上高	経常利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
鉄 鋼 事 業 部 門	742,841	△50,212	808,544	33,593
溶 接 事 業 部 門	82,216	2,154	88,345	7,201
アルミ・銅事業部門	262,201	3,912	295,685	15,164
機 械 事 業 部 門	167,117	12,039	149,806	6,486
エンジニアリング事業部門	46,493	△1,335	39,113	△3,935
神鋼環境ソリューション	72,656	3,918	68,160	2,607
コベルコ建機	267,821	6,852	318,217	15,119
コベルコクレーン	45,501	△2,250	56,639	3,200
そ の 他	73,236	7,554	71,220	6,844
調 整 額	△74,556	△780	△71,034	△1,236
合 計 (うち海外売上高)	1,685,529 (572,461)	△18,146	1,824,698 (645,558)	85,044

(2) 設備投資の状況

当期の設備投資総額は、工事（検収）ベースで1,014億円であります。

当期末現在継続中の主な設備投資は、次のとおりであります。

区 分	設 備 名
継続中	当社 加古川製鉄所 発電用ボイラ更新他（鉄鋼事業部門）
	当社 加古川製鉄所 新溶銑処理工場（鉄鋼事業部門）
	当社 加古川製鉄所・神戸製鉄所 上工程設備の加古川製鉄所への集約に伴う設備増強・物流設備他（鉄鋼事業部門）
	当社 加古川製鉄所 第3高炉改修工事（鉄鋼事業部門）
	コウベアルミナム オートモーティブ プロダクツ LLC 米国ケンタッキー州溶解鑄造ライン・鍛造プレス他増設（アルミ・銅事業部門）
神鋼汽車鋁材（天津）有限公司 中国天津市自動車パネル材製造工場（アルミ・銅事業部門）	

(3) 資金調達の状況

当社は、平成26年2月4日開催の取締役会にて、公募増資を実施することを決議し、合計836億円を調達いたしました。その内容は以下のとおりであります。

公募による新株式発行（払込期日：平成26年2月26日）	622億円
オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資による新株式発行 （払込期日：平成26年3月19日）	76億円
公募による自己株式の処分（払込期日：平成26年2月26日）	137億円

(4) 財産および損益の状況

① 企業集団の財産および損益の状況

区 分	第158期 (平成22年度)	第159期 (平成23年度)	第160期 (平成24年度)	第161期(当期) (平成25年度)
売 上 高 (百万円)	1,858,574	1,864,691	1,685,529	1,824,698
営 業 利 益 (百万円)	124,550	60,555	11,234	114,548
経 常 利 益 (百万円)	89,082	33,780	△18,146	85,044
当期純利益 (百万円)	52,939	△14,248	△26,976	70,191
1株当たり当期純利益	17円63銭	△4円74銭	△8円98銭	22円62銭
総 資 産 (百万円)	2,231,532	2,159,512	2,226,996	2,288,636
純 資 産 (百万円)	597,367	571,258	569,922	734,679
1株当たり純資産	182円81銭	171円84銭	170円63銭	184円11銭

② 当社の財産および損益の状況

区 分	第158期 (平成22年度)	第159期 (平成23年度)	第160期 (平成24年度)	第161期(当期) (平成25年度)
売 上 高 (百万円)	1,090,108	1,078,684	933,879	993,743
営 業 利 益 (百万円)	50,510	△9,357	△41,199	46,171
経 常 利 益 (百万円)	28,127	△19,798	△21,992	58,355
当期純利益 (百万円)	30,345	△30,245	△6,882	56,660
1株当たり当期純利益	10円 9銭	△10円 6銭	△2円28銭	18円23銭
総 資 産 (百万円)	1,535,201	1,401,668	1,455,669	1,463,443
純 資 産 (百万円)	426,489	380,442	380,046	511,758
1株当たり純資産	141円87銭	126円56銭	126円43銭	140円64銭

(5) 主要な事業内容（平成26年3月31日現在）

当社グループは、主として次に掲げる事業を行なっております。

区 分		主要な製品・事業内容
鉄鋼事業部門	条鋼 鋼板 鋼片	普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼 厚板、中板、薄板（熱延・冷延・表面処理）
	加工製品・銑鉄他	鍛鍛鋼品（船用部品・電機部品・産業機械部品等）、チタンおよびチタン合金、鉄粉、鋳物用銑、製鋼用銑、スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線
	電力卸供給	電力卸供給
溶接事業部門		溶接材料（各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス）、溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、溶接関連試験・分析・コンサルティング業
アルミ・銅事業部門	アルミ圧延品	飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板
	銅圧延品	半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、復水管、空調用銅管
	アルミ鋳鍛造品他	アルミニウム合金およびマグネシウム合金鋳鍛造品（航空機用部品、自動車用部品等）、アルミ加工品（自動車用部品、建材、建設用仮設資材等）
機械事業部門		エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高圧装置、真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、各種プラント（製鉄圧延、非鉄等）、各種内燃機関
エンジニアリング事業部門		製鉄プラント（還元鉄）、各種プラント（ペレタイジング、石油化学等）、原子力関連プラント、砂防・防災製品、土木工事、新交通システム
神鋼環境ソリューション		水処理プラント、廃棄物処理プラント、化学・食品関連機器
コベルコ建機		油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ
コベルコクレーン		クローラクレーン、ラフテレーンクレーン、作業船
そ の 他		不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、不動産賃貸・ビルマネジメント、マンション管理、特殊合金他新材料（ターゲット材等）、各種材料の分析・解析、高圧ガス容器製造業、超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社

(6) 主要な営業所および工場（平成26年3月31日現在）

当 社	本	社	神戸（本店）、東京	
	支	社	大阪、名古屋	
	支	店	北海道（札幌市）、東北（仙台市）、新潟（新潟市）、北陸（富山市）、 四国（高松市）、中国（広島市）、九州（福岡市）、沖縄（那覇市）	
	海	外	ニューヨーク、シンガポール、上海	
	研	究	所	神戸（神戸市）
	工 場	鉄	鋼	加古川（兵庫県）、神戸（神戸市）、高砂（兵庫県）
		溶	接	藤沢（神奈川県）、茨木（大阪府）、 西条（広島県）、福知山（京都府）
		アルミ・銅		真岡（栃木県）、長府（山口県）、大安（三重県）
		機 エンジニアリング	械	高砂（兵庫県）、播磨（兵庫県）
	子 会 社 お よ び 関 連 会 社	<p>【鉄鋼事業部門】日本高周波鋼業株式会社（東京都）、神鋼特殊鋼管株式会社（山口県下関市）、 神鋼建材工業株式会社（兵庫県尼崎市）、神鋼神戸発電株式会社（神戸市）、 神鋼物流株式会社（神戸市）、神鋼ボルト株式会社（千葉県市川市）、 堺鋼板工業株式会社（大阪府堺市）、株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス（神戸市）、 株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ（兵庫県尼崎市）、 神鋼鋼線工業株式会社（兵庫県尼崎市）、関西熱化学株式会社（兵庫県尼崎市）、 日本エアロフォージ株式会社（岡山県倉敷市）、株式会社テザックワイヤロープ（大阪府貝塚市）、 プロテック コーティング CO. (米国)、エスアールティアー オーストラリア Pty Ltd(豪州)</p> <p>【溶接事業部門】エヌアイウエル株式会社（大阪市）、 青島神鋼溶接材料有限公司（中国）、コウベ ウェルディング オブ コリア CO.,LTD. (韓国)</p> <p>【アルミ・銅事業部門】株式会社コベルコ マテリアル銅管（東京都）、 神鋼汽車鋁材（天津）有限公司（中国）、神鋼汽車鋁部品（蘇州）有限公司（中国）、 コウベ アルミナム オートモーティブ プロダクツ LLC (米国)、 コウベ プレシジョン テクノロジー SDN. BHD. (マレーシア)</p> <p>【機械事業部門】コベルコ・コンプレッサ株式会社（東京都）、神鋼造機株式会社（岐阜県大垣市）、 神鋼圧縮機製造（上海）有限公司（中国）、無錫圧縮機股份有限公司（中国）</p> <p>【エンジニアリング事業部門】ミドレックス テクノロジーズ, INC. (米国)</p> <p>【神鋼環境ソリューション】株式会社神鋼環境ソリューション（神戸市）、 神鋼環境メンテナンス株式会社（神戸市）</p> <p>【コベルコ建機】コベルコ建機株式会社（東京都）、 東日本コベルコ建機株式会社（千葉県市川市）、西日本コベルコ建機株式会社（兵庫県尼崎市）、 成都神鋼工程機械（集団）有限公司（中国）、成都神鋼建設機械有限公司（中国）、 杭州神鋼建設機械有限公司（中国）、成都神鋼建機融資租賃有限公司（中国）、 タイ コベルコ コンストラクション マシナリー LTD. (タイ)、 コベルコ インターナショナル シンガポール CO.,PTE.LTD. (シンガポール)、 コベルコ コンストラクション マシナリー (USA) INC. (米国)、 コベルコ コンストラクション イクイップメント インディア PVT.LTD. (インド)</p> <p>【コベルコクレーン】コベルコクレーン株式会社（東京都）</p> <p>【その他】神鋼不動産株式会社（神戸市）、株式会社コベルコ科研（神戸市）、 神鋼投資有限公司（中国）、コウベ スチール USA ホールディングス INC. (米国)、 神鋼商事株式会社（大阪市）、京セラメディカル株式会社（大阪市）</p>		

(注) 当社の「海外」には、現地法人を含めております。

(7) 従業員の状況（平成26年3月31日現在）

① 企業集団の従業員の状況

区 分	従 業 員 数
鉄 鋼 事 業 部 門	9,745 名
溶 接 事 業 部 門	2,500
アルミ・銅事業部門	6,008
機 械 事 業 部 門	3,542
エンジニアリング事業部門	726
神鋼環境ソリューション	2,189
コ ベ ル コ 建 機	6,737
コ ベ ル コ ク レ ーン	784
その 他 また は 全 社	3,788
合 計	36,019

(注) 従業員数は就業人員数であります。

② 当社の従業員の状況

従 業 員 数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
10,586名	188名増	40.7歳	18.1年

(注) 1. 従業員数は就業人員数であります。

(注) 2. 上記従業員数には、出向者1,563名を含んでおりません。

(8) 重要な子会社等の状況

区分	会 社 名	資 本 金	議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
子 会 社	日本高周波鋼業株式会社	百万円 15,669	51.84 %	特殊鋼鋼材の製造、販売
	神鋼特殊鋼管株式会社	4,250	100.00	ステンレス鋼管・精密鋼管の製造、販売
	神鋼建材工業株式会社	3,500	96.80	土木・建築用製品の製造、販売
	神鋼神戸発電株式会社	3,000	100.00	電力卸供給
	神鋼物流株式会社	2,479	97.68	港湾運送、内航海運、通関、貨物自動車運送、倉庫、工場構内諸作業請負
	神鋼ボルト株式会社	465	100.00	建築・建設機械用等各種ボルトの製造、販売

区分	会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
子会社	堺鋼板工業株式会社	百万円 320	80.00 %	薄鋼板の剪断加工、販売
	株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス	150	100.00	各種プラント・機械の設計、製作、据付、配管および保全工事
	エヌアイウエル株式会社	44	100.00	溶接材料および溶接関連機器の販売
	青島神鋼溶接材料有限公司	千元 211,526	90.00	溶接材料の製造、販売
	コウベ ウェルディング オブ コリア CO.,LTD.	百万ウォン 5,914	91.06	溶接材料の製造、販売
	株式会社コベルコ マテリアル 鋼管	百万円 6,000	55.00	空調用鋼管、建築・給湯用鋼管等の製造、販売
	神鋼汽車鋁材(天津)有限公司	千元 250,000	※1 100.00	自動車パネル用アルミ板材の製造、販売
	神鋼汽車鋁部材(蘇州)有限公司	239,681	60.00	自動車サスペンション用アルミ鍛造部品の製造、販売
	コウベアルミナム オートモーティブ プロダクツ LLC	千米ドル 24,000	※1 60.00	自動車サスペンション用アルミ鍛造部品の製造、販売
	コウベプレジジョンテクノロジー SDN. BHD.	千マレーシアリングギット 19,000	100.00	ハードディスクドライブ用磁気ディスク基板の製造、販売
	コベルコ・コンプレッサ株式会社	百万円 450	100.00	空気圧縮機・冷凍機の販売、サービス
	神鋼造機株式会社	388	※1 100.00	内燃機関、変速機、試験機等の製造、販売
	神鋼圧縮機製造(上海)有限公司	千元 87,796	100.00	圧縮機および関連製品の開発・製造、当社製品の販売・サービス
	ミドレックステクノロジーズ, INC.	千米ドル 1	※1 100.00	還元鉄プラントの設計・製作・建設
	株式会社神鋼環境ソリューション	百万円 6,020	※1 ※2 80.36	各種環境プラントの設計・製作・建設、各種産業用機器装置の設計・製作
	神鋼環境メンテナンス株式会社	80	※1 100.00	水処理施設および廃棄物処理施設等の維持管理、保守点検、運転、修理工事等
	コベルコ建機株式会社	16,000	96.00	建設機械の製造、販売
東日本コベルコ建機株式会社	490	※1 100.00	建設機械の販売、サービス	
西日本コベルコ建機株式会社	490	※1 100.00	建設機械の販売、サービス	

区分	会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
子会社	成都神鋼工程機械(集団)有限公司	千元 56,468	※1 56.32 %	建設機械の販売、サービス
	成都神鋼建設機械有限公司	139,846	※1 88.74	建設機械の製造、販売
	杭州神鋼建設機械有限公司	237,551	※1 50.67	建設機械の製造、販売
	成都神鋼建機融資租賃有限公司	437,994	※1 75.95	リース業務
	タイ コベルコ コンストラク ション マシナリー LTD.	千タイバーツ 560,000	※1 100.00	建設機械の製造、販売
	コベルコ インターナショナル シンガポール CO.,PTE.LTD.	千米ドル 11,113	※1 100.00	建設機械の販売
	コベルコ コンストラクション マシナリー (USA) INC.	2	※1 100.00	建設機械の販売
	コベルコ コンストラクション イクイップメント インディア PVT.LTD.	百万インドルピー 2,000	※1 95.00	建設機械の製造、販売
	コベルコクレーン株式会社	百万円 6,380	100.00	建設機械の製造、販売
	神鋼不動産株式会社	3,037	100.00	不動産分譲、仲介、リフォーム、不 動産賃貸、ビルマネジメント
	株式会社コベルコ科研	300	100.00	各種材料の分析・試験、構造物の評価お よびターゲット材、半導体・F PD等検 査装置の製造、販売
	神鋼投資有限公司	千元 642,759	100.00	中国における事業統括会社
コウベスチール USA ホールディ ングス INC.	千米ドル 205	100.00	米国における事業会社の株 式保有	
関連会社	株式会社大阪チタニウムテ クノロジーズ	百万円 8,739	23.92	スポンジチタン・多結晶シリ コン等の製造、販売
	神鋼鋼線工業株式会社	8,062	※1 35.90	線材二次製品の製造、販売および各 種構造物の建設工事の請負
	関西熱化学株式会社	6,000	24.00	コークス類その他各種化学 工業品の製造、販売
	日本エアロフォーゼ株式会社	1,850	40.54	大型鍛造品の製造、販売

区分	会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
関連会社	株式会社テザックワイヤロープ	百万円 450	% 42.10	鋼索・鋼線・鋼撚線の製造、販売
	プロテック コーティング CO.	千米ドル 123,000	※1 50.00	亜鉛めっき鋼板、高張力冷延鋼板の製造、販売
	エスアールティール オーストラリア Pty Ltd	千豪ドル 67,961	※1 33.00	豪州サウスダウンプロジェクトの権益 (30%) 保有
	無錫圧縮機股份有限公司	千元 92,010	※1 44.35	圧縮機の製造、販売
	神鋼商事株式会社	百万円 5,650	※1 ※2 35.08	鉄鋼、非鉄金属、機械等の売買および輸出入
	京セラメディカル株式会社	2,500	23.00	人工関節、人工歯根をはじめとする医療材料・医療機器の開発、製造、販売

- (注) 1. 上表の※1印は、子会社保有の株式を含めております。
- (注) 2. 上表の※2印は、退職給付信託として拠出している株式を含めております。
- (注) 3. 当期において、神鋼汽車鋁材（天津）有限公司および日本エアロフォージ株式会社を新たに追加いたしました。
- (注) 4. 当期において、当社は、株式交換により株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンスを完全子会社といたしました。
- (注) 5. 当期において、神鋼投資有限公司は増資を実施した結果、資本金は642,759千元となりました。
- (注) 6. 平成26年4月1日付で、京セラメディカル株式会社の当社保有株式を京セラ株式会社に全部譲渡いたしました。

(9) 主要な借入先および借入額（平成26年3月31日現在）

借入先	借入金残高
	百万円
株式会社日本政策投資銀行	92,719
株式会社みずほ銀行	56,422
日本生命保険相互会社	43,761
株式会社三菱東京UFJ銀行	41,410
株式会社三井住友銀行	38,691
三菱UFJ信託銀行株式会社	22,103

- (注) 1. 主要な借入先であった株式会社みずほコーポレート銀行は、平成25年7月1日付で株式会社みずほ銀行と合併し、商号を株式会社みずほ銀行に変更いたしました。
- (注) 2. 上記のほか、株式会社みずほ銀行、株式会社三菱東京UFJ銀行および株式会社三井住友銀行をそれぞれ幹事とするシンジケートローンが、合わせて24,000百万円ありますが、各借入先の借入金残高には含めておりません。

2. 会社の株式に関する事項（平成26年3月31日現在）

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 発行可能株式総数 | 6,000,000,000株 |
| (2) 発行済株式の総数 | 6,643,642,100株 |
| (3) 株主数 | 240,431名 |
| (4) 大株主（上位10名） | |

株主名	持株数	持株比率	当社の大株主への出資状況	
			持株数	持株比率
	千株	%	千株	%
新日鐵住金株式会社	214,690	5.90	134,882	1.42
日本生命保険相互会社	110,117	3.03	—	—
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	97,438	2.68	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	97,023	2.67	—	—
株式会社みずほ銀行	64,669	1.78	—	—
三菱UFJ信託銀行株式会社	52,333	1.44	—	—
株式会社三菱東京UFJ銀行	47,348	1.30	—	—
双日株式会社	45,016	1.24	2,024	0.16
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	35,223	0.97	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	34,820	0.96	—	—

- (注) 1. 当社は、自己株式4,902千株を保有しております。大株主の当社に対する持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
- (注) 2. 株式会社みずほコーポレート銀行は、平成25年7月1日付で株式会社みずほ銀行と合併し、商号を株式会社みずほ銀行に変更いたしました。
- (注) 3. 株式会社みずほ銀行は、株式会社みずほフィナンシャルグループの完全子会社であります。当社は、株式会社みずほフィナンシャルグループの普通株式16,161,453株（持株比率0.07%）を保有しております。
- (注) 4. 三菱UFJ信託銀行株式会社および株式会社三菱東京UFJ銀行は、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの完全子会社であります。当社は、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの普通株式8,704,020株（持株比率0.06%）を保有しております。
- (注) 5. あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社の完全子会社であります。当社は、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社の普通株式67,169株（持株比率0.01%）を保有しております。

(5) 自己株式の取得、処分および保有

① 取得株式

- ・単元未満株式の買取りによる取得

普通株式	127,869株
取得価額の総額	20,061,437円

② 処分株式

- ・単元未満株式の買増請求により処分した自己株式

普通株式	6,501株
処分価額の総額	1,008,963円

③ 当期末における保有株式

普通株式	4,902,371株
------	------------

- (注) 1. 当社は、平成25年4月1日をもって、株式交換により株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンスを完全子会社といたしました。株式交換に際しては、新株式の発行に代えて、自己株式471,033株を割当交付いたしました。
- (注) 2. 当社は、当期において公募増資を実施し、合計632,500千株（自己株式の処分 103,919千株を含む。）を発行いたしました。発行した株式の内容は以下のとおりであります。
- | | |
|---|--------------|
| 公募による新株式発行（払込期日：平成26年2月26日） | 470,831,000株 |
| オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資による新株式発行（払込期日：平成26年3月19日） | 57,750,000株 |
| 公募による自己株式の処分（払込期日：平成26年2月26日） | 103,919,000株 |

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役および監査役（平成26年3月31日現在）

地 位	氏 名	担 当	重要な兼職の状況
取締役会長 (代表取締役)	佐藤 廣士		
取締役社長 (代表取締役)	川崎 博也		
取締役副社長 (代表取締役)	山口 育廣	鉄鋼事業部門長	
取締役副社長 (代表取締役)	藤原 寛明	監査部、秘書広報部、総務部、法務部、環境防災部、人事労政部、経営企画部、ものづくり推進部、IT企画部、経理部、財務部、営業企画部、建設技術部、真岡発電プロジェクト推進部、支社・支店（高砂製作所を含む）、海外拠点（本社所管）の総括、全社コンプライアンス、全社システムの総括	
取締役副社長 (代表取締役)	高橋 徹	アルミ・銅事業部門長	
取締役副社長 (代表取締役)	田中 順	エンジニアリング事業部門長	
専務取締役	粕谷 強	溶接事業部門長	
専務取締役	楢木 一秀	機械事業部門長	
取 締 役	北畑 隆生		丸紅株式会社社外取締役 学校法人三田学園理事長
取 締 役	山内 拓男		
監 査 役 (常 勤)	大越 年祝		
監 査 役 (常 勤)	宮崎 純		
監 査 役	佐々木茂夫		積水樹脂株式会社 社外監査役 岩井コスモ証券株式会社 社外取締役 東京証券取引所自主規制法人 外部理事

地 位	氏 名	担 当	重要な兼職の状況
監 査 役	沖本 隆史		富士通株式会社 社外取締役 中央不動産株式会社 取締役社長 新電元工業株式会社 社外監査役 清和綜合建物株式会社 監査役
監 査 役	坂井 信也		阪急阪神ホールディングス 株式会社取締役 朝日放送株式会社 社外取締役 山陽電気鉄道株式会社 社外取締役 株式会社阪神タイガース 取締役会長 阪神電気鉄道株式会社 取締役会長

(注) 1. 取締役北畑隆生、取締役山内拓男の2氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

(注) 2. 監査役佐々木茂夫、監査役沖本隆史および監査役坂井信也の3氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

(注) 3. 当社は、取締役北畑隆生、取締役山内拓男、監査役佐々木茂夫、監査役沖本隆史および監査役坂井信也の5氏を、独立役員として金融商品取引所に届け出ております。

(注) 4. 監査役大越年祝、監査役沖本隆史および監査役坂井信也の3氏は、以下のとおり財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

- ・監査役大越年祝氏は、当社において、経理部門に長年在籍し、平成15年6月から平成16年3月まで、執行役員として経理部門を担当しておりました。
- ・監査役沖本隆史氏は、株式会社第一勧業銀行および株式会社みずほコーポレート銀行に長年勤務し、平成17年4月から平成19年4月まで、取締役として銀行業務に従事しておりました。
- ・監査役坂井信也氏は、阪神電気鉄道株式会社において、経理部門に長年在籍し、平成14年6月から平成18年6月まで、取締役として同部門を担当しておりました。

(注) 5. 東京証券取引所自主規制法人は、平成26年4月1日付で名称を日本取引所自主規制法人に変更いたしました。

(注) 6. 平成26年4月1日付の取締役の地位の異動は次のとおりであります。

異動後の地位	氏 名	異動前の地位
取締役副社長	山 口 育 廣	取締役副社長 (代表取締役)
取締役副社長	藤 原 寛 明	取締役副社長 (代表取締役)
取締役副社長	高 橋 徹	取締役副社長 (代表取締役)
取締役副社長 (代表取締役)	檜 木 一 秀	専 務 取 締 役

(注) 7. 平成26年4月1日現在の取締役・執行役員の体制および担当は、次のとおりであります。

① 本社

地 位	氏 名	担 当
取締役会長 (代表取締役)	佐藤 廣 士	
取締役社長 (代表取締役)	川崎 博 也	
取締役副社長	山口 育 廣	社長付
取締役副社長	藤原 寛 明	社長付
取締役副社長	高橋 徹	社長付
取 締 役	北畑 隆 生	
取 締 役	山内 拓 男	
専務執行役員	沖田 誠 治	営業企画部、建設技術部、支社・支店（除く大阪支社、高砂製作所）の担当
専務執行役員	梅原 尚 人	監査部、秘書広報部、総務部、法務部、人事労政部、経営企画部、経理部、財務部、営業企画部、建設技術部、真岡発電プロジェクト推進部、ラグビー部支援室、支社・支店（高砂製作所を含む）、海外拠点（本社所管）の総括、全社コンプライアンスの総括
常務執行役員	花岡 正 浩	社長付
常務執行役員	杉崎 康 昭	全社技術開発の総括、環境防災部、ものづくり推進部、IT企画部の総括、全社システムの総括、技術開発本部長
常務執行役員	森地 高 文	監査部、秘書広報部、総務部、法務部、人事労政部（除く安全管理、QC支援）、ラグビー部支援室、大阪支社、高砂製作所の担当、全社コンプライアンスの担当
執行役員	三宅 俊 也	技術開発本部副本部長、新鉄源事業の支援
執行役員	河原 一 明	経理部、財務部の担当
執行役員	山本 浩 司	人事労政部（QC支援）、経営企画部、ものづくり推進部、IT企画部の担当、海外拠点（本社所管）の担当、全社システムの担当

② 鉄鋼事業部門

地 位	氏 名	担 当
副社長執行役員	尾 上 善 則	事業部門長
専務執行役員	宮 下 幸 正	企画管理部、営業総括部、原料部、資材部の担当、営業全般の担当
専務執行役員	藤 井 晃 二	鋼材生産全般の担当、神戸製鉄所長
常務執行役員	宮 脇 新 也	線材条鋼商品技術部、厚板商品技術部、薄板商品技術部の担当
常務執行役員	岩 佐 道 秀	事業部門長付
常務執行役員	後 藤 隆	線材条鋼営業部の担当
常務執行役員	水 口 誠	環境防災部、人事労政部（安全管理）、システム技術部、技術開発センターの担当、技術総括部長
常務執行役員	柴田 耕一朗	加古川製鉄所長
執行役員	対 馬 靖	企画管理部長
執行役員	松 原 弘 明	鋳鍛鋼事業部、チタン本部、鉄粉本部の担当
執行役員	北 川 二 朗	I P P 本部長、I P P 本部企画部長
執行役員	岡 欣 彦	厚板営業部、薄板営業部の担当

③ 溶接事業部門

地 位	氏 名	担 当
専務取締役	粕 谷 強	事業部門長
常務執行役員	興 石 房 樹	副事業部門長、営業部、技術センターの担当、中国事業全般の担当

④ アルミ・銅事業部門

地 位	氏 名	担 当
専務執行役員	金 子 明	事業部門長
常務執行役員	加 藤 宏	企画管理部、原料部の担当、営業全般の担当
常務執行役員	藤 井 拓 己	真岡製造所長、技術開発の担当

⑤ 機械事業部門

地 位	氏 名	担 当
取締役副社長 (代表取締役)	檜 木 一 秀	事業部門長
専務執行役員	大 濱 敬 織	圧縮機事業部長
常務執行役員	山 口 貢	圧縮機事業部副事業部長、資材調達部の担当、企画管理部長
常務執行役員	松 田 彰 雄	産業機械事業部長

⑥ エンジニアリング事業部門

地 位	氏 名	担 当
取締役副社長 (代表取締役)	田 中 順	事業部門長
常務執行役員	眞 部 晶 平	副事業部門長、企画管理部の担当
常務執行役員	森 崎 計 人	安全品質環境管理部、鉄構・砂防部、都市システム部、プロジェクトサポートセンターの担当、原子力・CWD本部の担当
執行役員	石 川 裕 士	新鉄源本部長

(2) 取締役および監査役の報酬等の総額

区 分	報 酬		備 考
	支給人員	支払額	
取締役 (うち社外取締役)	10 (2)	百万円 398 (26)	
監査役 (うち社外監査役)	5 (3)	104 (39)	
合 計	15	502	

(注) 1. 平成16年6月25日開催の第151回定時株主総会において、取締役の報酬額は月額63百万円以内（ただし、使用人兼務取締役の使用人としての職務に対する給与は含まない）、監査役の報酬額は月額11百万円以内と決議いただいております。

(注) 2. 取締役の報酬は業績連動型の報酬制度に基づいて決定しております。役職位毎の基準報酬額を、年度毎の全社および各事業部門の業績に応じて変動させることで、各事業に対する結果責任を明確にしております。

なお、社外取締役はその役割に鑑み、業績連動型の報酬制度の対象外としております。

監査役については、取締役報酬などを勘案し、役割に応じた報酬を設定しております。

取締役・監査役報酬は、それぞれ株主総会にて決議された限度額の範囲内において支給しております。

決定方法としては、取締役の報酬制度に関する方針は取締役会決議にて、監査役報酬の方針は監査役全員の協議により決定しております。

(注) 3. 経営環境に鑑み、業績連動後の取締役報酬額から更なる減額措置として、平成24年4月より最大10%（平均7%）、平成24年12月より更に一律10%拡大し、最大20%（平均17%）の減額を平成26年3月まで実施いたしました。また、役員賞与は支給しておりません。

(3) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の社外役員の兼職の状況

地 位	氏 名	兼職する法人等	兼職の内容
取 締 役	北 畑 隆 生	丸紅株式会社 学校法人三田学園	社外取締役 理事長
監 査 役	佐々木 茂夫	積水樹脂株式会社 岩井コスモ証券株式会社 東京証券取引所自主規制法人	社外監査役 社外取締役 外部理事
監 査 役	沖 本 隆 史	富士通株式会社 中央不動産株式会社 新電元工業株式会社 清和綜合建物株式会社	社外取締役 取締役社長 社外監査役 監査役
監 査 役	坂 井 信 也	阪急阪神ホールディングス株式会社 朝日放送株式会社 山陽電気鉄道株式会社 株式会社阪神タイガース 阪神電気鉄道株式会社	取締役 社外取締役 社外取締役 取締役会長 取締役会長

(注) 1. 当社と丸紅株式会社、富士通株式会社、阪神電気鉄道株式会社との間には、取引関係はございませんが、開示すべき特別な関係はございません。

(注) 2. 当社と社外役員のその他の兼職先との間には、開示すべき特別な関係はございません。

(注) 3. 取締役北畑隆生氏は、平成26年4月1日より、学校法人三田学園の学校長を兼務しております。

(注) 4. 東京証券取引所自主規制法人は、平成26年4月1日付で名称を日本取引所自主規制法人に変更いたしました。

② 当事業年度における主な活動状況

	取締役会 出席回数 (出席率)	監査役会 出席回数 (出席率)	取締役会および監査役会 における発言状況
取締役 北畑 隆生	16回中15回 (94%)	—	行政官としての幅広い経験・見識から、経営に係る助言および提言を行なっております。
取締役 山内 拓男	16回中16回 (100%)	—	経営者としての豊富な経験・見識から、経営に係る助言および提言を行なっております。
監査役 佐々木 茂夫	16回中16回 (100%)	28回中28回 (100%)	法曹界における豊富な経験・見識から、経営に係る助言および提言を行なっております。また、コンプライアンスに係る問題に対しても、積極的に意見を表明しております。
監査役 沖本 隆史	16回中14回 (88%)	28回中28回 (100%)	金融界における豊富な経験・見識から、経営に係る助言および提言を行なっております。また、コンプライアンスに係る問題に対しても、積極的に意見を表明しております。
監査役 坂井 信也	16回中12回 (75%)	28回中27回 (96%)	産業界における豊富な経験・見識から、経営に係る助言および提言を行なっております。また、コンプライアンスに係る問題に対しても、積極的に意見を表明しております。

③ 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役および社外監査役は、会社法第427条第1項および定款の定めに基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、20百万円または法令が規定する額のいずれか高い額としております。

4. 会計監査人に関する事項

(1) 会計監査人の名称

有限責任 あずさ監査法人

(2) 会計監査人の報酬等の額

区 分		支 払 額
①	当社が支払うべき会計監査人としての報酬等の額	101 百万円
②	当社および子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	448

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の報酬の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、上記の①の金額にはこれらの合計額を記載しております。

(注) 2. 当社の重要な子会社のうち、海外に所在する子会社は、当社の会計監査人以外の監査法人の監査を受けております。

(3) 非監査業務の内容

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）である「財務デューデリジェンス業務」等を委託しております。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社では、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号記載のいずれかに該当すると認められる場合には、監査役全員の同意のもとに会計監査人を解任します。

また、取締役会は、会計監査人が会計監査を適切に遂行できないと判断されるとき、その他その必要があると判断した場合、監査役会の同意を得て、または監査役会の請求に基づき、当該会計監査人の解任または不再任に係る議案を株主総会に提出します。

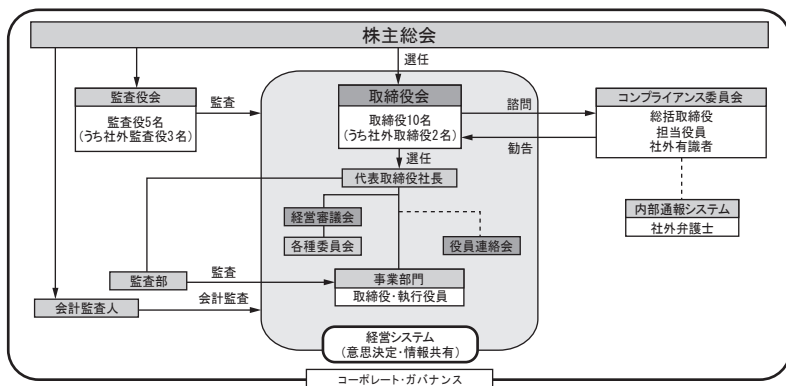
5. 会社の体制および方針

(1) 当社の企業統治の体制

当社は、「委員会設置会社」のように経営の監督と執行を完全に分離するのではなく、会社事業に精通した者が中心になってより機動的な経営を行なう「監査役設置会社」であります。当社の取締役会は、活発かつ幅広く議論が行なわれるよう、社長の他、本社部門で重要な役職を担う取締役、重要な5つの事業部門の長たる取締役で構成し、加えて、より一層の透明性、公正性を担保するため、社外取締役2名を置いています。

また、監査役は、会社法上、3名以上置き、そのうち半数以上を社外監査役とすることが義務づけられていますが、当社はより透明性・公正性が担保され、監査機能が果たされるよう、5名の監査役を置き、そのうち3名は法曹界、金融界、産業界出身の社外監査役で構成されています。

<コーポレート・ガバナンス体制図>



(注) 本定時株主総会で選任をお諮りする取締役候補者が選任されますと、取締役11名（うち社外取締役2名）となります。

(2) 取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制

当社の取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制は、以下のとおりです。

① 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

法令等を遵守するための具体的な企業行動指針を定めた『企業倫理綱領』をコンプライアンスの規範・基準とする。また、当社および主要グループ会社において、取締役会の諮問機関として外部委員を入れた「コンプライアンス委員会」を設置する他、外部の弁護士を受付窓口とする「内部通報システム」を導入するなど、外部からのチェックを組み込んだ法令遵守体制を構築する。

② 財務報告の適正性確保のための体制整備

『財務報告に係る内部統制基本規程』に従い財務報告の適正性を確保するための社内体制を整備する。

③ 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

『取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する規程』に従い、適切に取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理を行なう。

④ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

『リスク管理規程』を策定することにより、業務の適正と効率性を確保する。『リスク管理規程』は、当事業を取り巻くリスクについて、各部門が個別のリスク項目を抽出し、その抽出されたリスク項目に対して予防保全策およびリスク顕在時の対応手順を定める他、リスク管理のモニタリング体制のあり方について規定するものである。『リスク管理規程』に定める「リスク管理基準」は、適宜その内容を見直すこととする。また、この体制については、内部監査部門により適切性及び有効性の検証を実施する。

⑤ 取締役の職務の執行が効率的に行なわれることを確保するための体制

当社は「監査役設置会社」であるが、より「透明性」「公正性」が確保された経営体制を実現すべく、当社グループのコーポレート・ガバナンス機能の中心となる当社取締役会に社外取締役を選任する。

また、「迅速」な意思決定に加えて、事業ユニット間での情報共有・連携などグループの総合力を最大限発揮していくための経営システムとして「事業部門制」を採用している。主要な事業部門では取締役が業務執行を統括し、その指揮の下で取締役会が選任した執行役員が業務を執行する。

この他、事業戦略等経営に関する方向性や取締役会付議事項を審議する場として「グループ経営審議会」および「経営審議会」を開催する。また、業務を執行する取締役、執行役員および技監ならびに社長の指名する関係会社の社長および役員を構成員とする「役員連絡会」を置き、経営に関する重要な事項について情報の共有化を図る。

⑥ 会社およびその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

『関係会社管理規程』に従い、関係会社の行なう重要な意思決定に際しては、当社主管理部門・本社部門と協議、重要事項の報告などを義務づけるとともに、一定金額を超える財産処分行為他については、当社の取締役会、社長の事前承認を要求することで、グループ一体運営を図ることとする。ただし、上場会社については当社からの一定の経営の独立性を確保することが必要であることから、当社が関係会社経営者の独自の判断を拘束することのないように配慮をする。

⑦ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項および同使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役職務を補助するため監査役事務局を置く。また、事務局の使用人については、取締役からの独立性を確保するために、その人事異動および人事評価等を監査役と事前に協議する。

⑧ 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役、執行役員および使用人は、監査役会または監査役に対して、法定事項に加え、定期的に職務の執行状況、重要な委員会等の報告を行なう。また、事業活動において発生した重要なリスクとその対応状況、財務報告の適正性を確保するための社内体制の整備・運用状況についても、都度報告する。

⑨ その他監査役による監査の実効性を行なわれることを確保するための体制

監査役による監査の実効性を確保するため、監査役会の「年度監査方針・計画」を取締役会等において説明を受ける他、監査役と代表取締役社長との定期的会合、内部監査部門との連携など監査環境の整備を図る。

(3) リスク管理活動について

当社は、上述(2)の内部統制システムに基づき、各種の社内規程を定め、各職位や全社的な研修を通じながら、その周知徹底を当社ならびにグループ各社にも図っております。

また、当社は、コンプライアンスに対する「感度」の高い組織文化を醸成することを目指して、「リスク管理活動」に取り組んでいます。具体的には、法令や社会の変化を踏まえた全社に共通するコンプライアンスリスクに加えて、各部門が、事業の中にあるリスクを独自に抽出・点検したうえで、各種の社内規程や、マニュアルなどを参照しながら、毎年、リスク管理計画を策定します(Plan)。次に、各部門では、この計画を実行し(Do)、点検し(Check)、翌年のリスク管理計画に改善点を反映させる(Action)という、一年ごとにPlan、Do、Check、Actionのサイクルを回す活動を行なっています。また、実効性を担保するために、各部門の一年間の活動結果を経営トップが確認したうえで、次年度以降の計画に繋げています。この運用は、グループ各社にも積極的に展開しております。

(4) 当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針（「会社支配に関する基本方針」）

① 基本方針の内容

当社は上場会社として、株式の自由な取引のなかで、当社の企業価値、ひいては株主共同の利益の確保・向上に資する形であれば、支配権の移動を伴う大規模な株式買付行為であっても、当然は認められるべきであると考えております。

しかしながら、一方、昨今のわが国の資本市場においては、株主・投資家などに十分な情報開示が行なわれることなく、突如として株式等の大規模買付けが行なわれる事例が少なからず見受けられます。こうした大規模な株式買付行為および提案の中には、当社に回復し難い損害をもたらすおそれのあるものを内容として含むものや、株主の皆様が大規模買付行為を受け入れるか否かを検討するのに必要な情報と時間を提供しないものも想定されます。このような行為は、いずれも当社の企業価値、ひいては株主共同の利益を著しく損なうおそれのあるものです。

特に、当社は素材関連や機械関連など様々な事業を行なっており、事業の裾野が広い分、多様なステークホルダーや、様々な事業により生み出されるシナジーが存在しますが、これら全てが当社独自の企業価値の源泉であると考えております。そして、これらのステークホルダーとの関係および事業間のシナジーについて十分な理解のない大規模買付者が当社の財務および事業の方針の決定を支配した場合には、当社の企業価値、ひいては株主共同の利益が毀損される可能性もあります。したがって、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値、ひいては株主共同の利益を向上させる上で必要不可欠な、当社の経営理念、企業価値を生み出す源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係などを十分に理解し、その結果として当社の企業価値、ひいては株主共同の利益を確保、向上させる者でなければならないと考えております。これに反して、上述のような大規模な株式買付行為および提案を行なう者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

当社をとりまく事業環境をみると、国際的な競争激化の中、企業買収は依然として活発な状況にあり、当社の経営方針に影響を与えるような当社株式の大規模な買付行為が将来行なわれる可能性は否定できません。

一方、こうした大規模買付行為の際に利用される公開買付制度については、少なくとも現在の制度に基づく限り、株主が大規模買付行為の是非を判断するための情報と検討期間が十分に確保できない場合もありえるといわざるをえません。

すなわち、国内外で行なわれている大型のM&A案件を見ると、友好的に行なわれる場合であっても、合意に至るまでに半年を超えて交渉を行なう事例も少なくありません。企業価値、ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するためには、経営陣との事前の合意無く行なわれる大規模買付行為においても、友好的に行なわれるのと同等の情報開示と評価検討期間が確保されることが必要であり、これを確保するための手続きが、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者を株主が選ぶにあたって必要であると当社は考えます。

以上を考慮した結果、当社といたしましては、大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供することを大規模買付者に求め、株主の皆様および当社取締役会のための一定の検討評価期間が経過した後にのみ当該大規模買付行為を開始するというルールを設定する必要があると考えております。

② 当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社支配に関する基本方針の実現に資する特別な取組み

(i) 「中長期経営ビジョン」による企業価値向上への取組み

当社グループは、平成22年4月に神戸製鋼グループ「中長期経営ビジョン」を策定し、現在、この実現に向け取り組んでおります。

「中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION“G”』』とは、多様な素材系、機械系のビジネスで培った神戸製鋼グループならではの知識・技術を更に融合することにより、

- ・ グローバル市場において存在感のある企業グループ
- ・ 安定収益体質と強固な財務基盤を備え持つ企業グループ
- ・ 株主・取引先・従業員・社会と共栄する企業グループ

の3つを5年～10年後の神戸製鋼グループ像として目指すものです。当社グループは、安全・コンプライアンスへの取組みを徹底した上で、以下の基本方針の下、様々な事業を展開しております。

『KOBELCO VISION“G”』の基本方針

- i) オンリーワンの徹底的な追求
- ii) 「ものづくり力」の更なる強化
- iii) 成長市場への進出深化
- iv) グループ総合力の発揮
- v) 社会への貢献

※ 「中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION“G”』」の内容の詳細は、当社ホームページ (<http://www.kobelco.co.jp>) プレスリリース欄 平成22年4月14日付「神戸製鋼グループ『中長期経営ビジョン』」をご覧ください。また、現在の取組み状況につきましては、1. (1) 事業の経過およびその成果ならびに対処すべき課題5ページから7ページに記載しております。

(ii) コーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化による企業価値向上への取組み

当社は、内部統制システムに基づき、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の充実と、万全なコンプライアンス体制の確立に全力を挙げ、企業価値の向上に取り組んでおります。

※ 内部統制システムについては25ページから26ページに記載しております。

③ 会社支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

平成25年6月26日開催の定時株主総会において、不適切な者によって当社の財務および事業の方針が決定されることを防止するための取組みとして、次のプラン（以下、「本プラン」といいます。）のご承認をいただきました。

【本プランの概要】

本プランは当社株券等に対する大規模買付行為が行なわれる場合に、以下の手順を定めております。

(i) 本プランの趣旨

当社株券等の持株割合が15パーセント以上となる当社株券等に対する大規模買付行為が行なわれる場合に、株主の皆様がこのような買付行為を受け入れるか否かを検討するために必要かつ十分な情報を事前に提供することを大規模買付者に求めるとともに、提供された情報に基づき、当社取締役会が当該大規模買付行為について検討評価を行なうための期間を設け、かかる期間が経過するまで大規模買付行為が開始されないようにすることを定めたものです。

(ii) 独立委員会の設置

当社取締役会の恣意的な判断を防止し、本プランに則った手続きの客観性、公正性、合理性を担保するため、独立委員会を設置しております。独立委員会の委員は、3名以上とし、社外の弁護士、公認会計士、税理士、学識経験者等および社外の経営者と社外取締役によって構成いたします。

(iii) 必要情報の提供

大規模買付者の提案が企業価値については株主共同の利益を高めるものか否かについて判断するため、大規模買付者に対し、株式取得の目的、買付対価の算定根拠、買付資金の裏付け、株式取得後の経営方針等について、情報提供を求めます。

ただし、提供される情報は、株主ならびに当社取締役会および独立委員会が大規模買付行為の是非を適切に判断するために必要かつ十分な範囲に限定されるものとし、独立委員会は、大規模買付者に延々と情報提供を求めるなどの濫用的な運用は行ないません。

(iv) 検討評価

独立委員会が大規模買付行為の是非を判断するのに必要かつ十分な情報提供を受けたと判断した旨を開示した日から、円貨の現金のみとする全部買付けの場合は60日間、これ以外の場合は90日間を当社取締役会および独立委員会の検討評価期間として確保いたします。

独立委員会は、この間、大規模買付行為の妥当性や対抗措置の発動の是非等を判断し、その検討の結果を取締役に勧告いたします。

独立委員会が当社取締役会に対して対抗措置を発動すべき旨の勧告をする場合には、当社社外取締役を務める委員のうち、少なくとも1名が賛成していることを必要とするものといたします。

※検討評価期間は、独立委員会が必要と判断した場合、最大60日延長可能といたします。

(v) 大規模買付行為がなされたときの対応

独立委員会の勧告を最大限に尊重し、取締役会が以下の基準のもとで判断いたします。

- a. 大規模買付者が本プランの手続きを遵守しない場合、原則として対抗措置を発動します。
- b. 大規模買付者が本プランの手続きを遵守した場合、取締役会は、仮に反対であっても、大規模買付行為に対する反対意見の表明や代替案の提示等を行なうにとどめ、原則として対抗措置はとりません。ただし、大規模買付行為が当社に回復し難い損害をもたらすと認められる場合や当社の企業価値を著しく損なうと判断される場合には対抗措置をとることがあります。

(vi) 対抗措置の内容

大規模買付者は行使することができないなどの条件を付した新株予約権の無償割当ての方法をとります。ただし、大規模買付者に新株予約権の対価として現金を交付する旨の取得条項を付することはできないものといたします。

(vii) 有効期限

平成27年6月に開催予定の当社定時株主総会の終了後最初に開催される取締役会終了のときまでとしております。

※ 本プランの内容の詳細は、当社ホームページ (<http://www.kobelco.co.jp>) プレスリリース欄 平成25年4月26日付「当社株券等の大規模買付行為に関する対応方針（買収防衛策）の継続について」をご覧ください。

④ 経営者の取組みが会社支配に関する基本方針に沿い、当社の株主共同の利益を損なうものではないこと、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものでないことについて

当社グループにおける取組みは、会社支配に関する基本方針にいう「当社の企業価値、ひいては株主共同の利益の確保・向上」のための現在の経営者による取組みです。

当社の現在のコーポレート・ガバナンス（企業統治）体制およびその強化のための様々な取組みは、会社法の規律に基づき、取締役の職務執行に対する監督機能を確保し、経営の透明性を高め、もって企業価値、ひいては株主共同の利益の向上に資する点で会社支配に関する基本方針に準拠するものです。

また、本プランは、「大規模買付行為に応じるか否かは、最終的には株主の皆様が判断する」という基本精神に基づき作成されております。本プランに定める手続きのいずれも、大規模買付行為に応じるか否かを当社株主の皆様が判断するために必要な情報を提供させるため、あるいは代替案の提示を受ける機会を株主の皆様に保障するための手段として採用されたものです。よって、本プランは、会社支配に関する基本方針の考え方に沿って設計されたものであり、当社株主共同の利益に資するものであると考えます。

さらに、本プランの発効は、株主総会における当社株主の皆様への承認が条件となっております。また、有効期間が明確に規定されていることから、本プランの更新を株主総会の決議により承認しないことが可能です。加えて、本プランは、取締役会決議によりいつでも廃止が可能であることから、当社株主の皆様が本プランの維持により株主共同の利益を損なうこととなると判断する場合、取締役の選解任権を行使することにより、いつでも株主の皆様のご意思によって本プランを廃止することが可能となっております。このような仕組みにより、本プランが当社株主共同の利益を損なうことがないように配慮されております。

本プランに定める当社取締役会による対抗措置の発動は、かかる本プランの規定に従って行なわれます。さらに、当社取締役会が大規模買付行為の是非を検討評価し、対抗措置を発動するか否かを判断するにあたっては、外部専門家などの助言を得るとともに、当社の業務執行を行なう経営陣から独立している委員で構成される独立委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされています。このように、本プランには、当社取締役会による適正な運用を担保するための手続きも盛り込まれています。以上から、本プランは当社役員の地位の維持を目的とするものでないと考えております。

(5) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めております。

成果の配分につきましては、当社の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮することとし、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、各期の業績および配当性向等を勘案して決定してまいります。

内部留保資金につきましては、将来の成長のために必要な投資等に充てることを通じて、収益力の向上に努めるとともに、財務体質の改善・強化を進めてまいります。

また、業績に応じた利益配分を考慮する上で、基準とする配当性向につきましては、当面の間、連結純利益の15%から25%程度を目安といたします。

剰余金の配当につきましては、会社法第459条第1項および第460条第1項に基づき、取締役会の決議によって定める旨を定款に定めております。

これに基づき、定款に定める基準日である中間期末および期末に、年2回の配当を取締役会決議により実施することを基本としております。それ以外を基準日とする配当を行なう場合には、別途取締役会にて基準日を設定したうえで行ないません。

以上

(注) 本事業報告中の記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てております。